



店舗兼工房



三代目 齋藤 満さん

市内企業の優れた技術力や製品、サービスを紹介します。



大正期から続く数少ない染物工房

当工房は、商店の暖簾のれんや神社の幟のぼり、幕、祭りの裃はんてんや手ぬぐい、風呂敷、各種旗などの染物を製作する染元です。伝統を継承し、私で三代目です。

染物というと、生地を染液に浸けるイメージがありますが、当社では「捺染なせん」という技法を用います。まず「紗しよ（細かいメッシュ状の布）」に、図柄を出力したカッティングシートを貼り付け、型を作ります。型を木綿生地に置き、染液を垂らし、スキージ（ゴムベラ）を一気にスライドさせ染色します。シートを貼った部分は、紗を染液が通過しないため染色されません。染色後は、色止め液を付けて一晩寝かせ、洗い、乾燥、仕上げ、縫製すると完成です。

木綿の風合いが生きる染物の魅力

染料で染めたものは色合いが鮮明で深みがあり、木綿の柔らかい肌触り、風合いやぬくもりを生かれます。型を使うので同じ図柄のものが作れますが、天候やスキージの力加減で仕上がり一枚一枚微妙に違ってくのも手作業ならではの魅力です。製作は全てオーダーメイド。暖簾の場合、お店の間口や雰囲気に合わせて、形、図柄、生地、染料の色をお客様と相談し決めていきます。

【企業の概要】

沿革 大正15年創業
 商号 齋藤染工場
 住所 酒田市南新町1-4-32
 ☎22-1713
 代表者 齋藤 好司
 従業員数 3人
 事業内容 印染、名入れ染物の製造販売
 ホームページ <http://www.saizome.jp/>



製作品の一例。普段何気なく見ている「暖簾」「裃」「手ぬぐい」「風呂敷」など、印染製品は身近なアイテムです。



生地の裏側までしっかりと染料を浸透させるために、先に捺染台へ染料を置いてから生地を乗せ、再度生地の上から色を染め（重ね）ます。

新刊紹介

図書館 24-2996

はじめての木工家具づくり

山上一郎/監修
大泉書店



木の風合いを生かす！アンティーク調に仕上げる！木工の基本から道具の使い方、塗装の基本、テーブル・イス・本棚・机・すき間収納ラックなどの作り方まで、写真とイラストでビジュアル解説。

中高生向け

都会のアリス

石井睦美/作 植田真/画
岩崎書店



商社勤めで海外出張の多い母、父は家で芝居の稽古ばかり。わたしは「おうちの人」と将来の相談をしたいのに…。13歳の少女が人生の選択に向き合う姿を「不思議の国のアリス」に重ねて描いた応援譚。

児童絵本

ん

長田弘/さく 山村浩二/え
講談社



「ん」は、おまけでも脇役でもありません。「ん」がなかったら、「ごほん」は「ごは」になってしまうし、「ごめん」は「ごめ」になってしまう。とっても大切なことば「ん」を主役にした、ユーモアいっぱいひらがな絵本。

◆図書館の本はインターネットでも検索できます。ホームページのアドレスは、<http://library.city.sakata.lg.jp/>